

# 平成 28 年度 台東区観光統計・マーケティング調査-概要版-

## 調査の目的と方法

### 1 調査目的

本調査は、本区への誘客促進及び今後の観光ルート開発等に関する観光都市づくりの施策展開に資することを目的に、観光統計の整備と観光客のマーケティング分析を行い、今後の観光施策における基礎資料とするものです。

### 2 調査方法

#### (1)調査フロー

観光客数等の推計においては、「観光入込客統計に関する共通基準」(平成 21 年観光庁策定)を基本として、各種統計資料や今回の調査で集計したデータをもとに、平成 28 年 1 月～同年 12 月の観光客数等の推計を行いました。

また、来訪者へのパラメータ調査（アンケート調査）を実施することで、観光客の意向を把握し、マーケティング分析に必要な基礎データを収集しました。

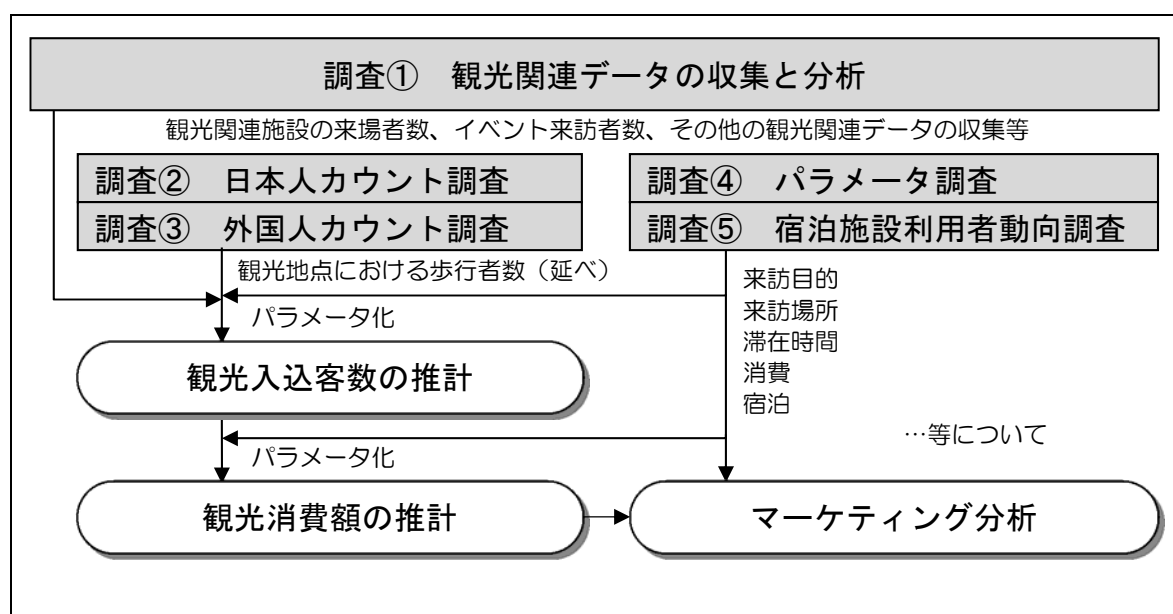


図1 調査フロー

## (2)調査内容

### 調査① 観光関連データの収集と分析

観光関連施設の来場者数、イベント来訪者数、その他観光関連データを調査し、観光入込客数の推計やマーケティング分析を行いました。

### 調査② 日本人カウント調査

観光入込客数の推計を行うための基礎データとして、4 地区（上野・浅草・谷中・浅草橋）15 か所での歩行者数を計測しました。

調査日は四半期ごとの平日・休日各 1 日、計 8 日、各地区でイベント等が行われていない日を選択し、平常時の観光入込客数を推計するための歩行者カウント調査を実施しました。

### 調査③ 外国人カウント調査

外国人観光入込客数の推計を行うため、日本人カウント調査とあわせ、外国人カウント調査を実施しました。

### 調査④ パラメータ調査（来訪者アンケート調査）

観光入込客数等の推計を行うためのパラメータを構築するため、歩行者カウント調査とあわせてアンケート調査を 4 地区 5 か所で実施しました。アンケート調査では、来訪者に対してアンケート調査票により記入依頼及び聞き取りを行いました。

### 調査⑤ 宿泊施設利用者動向調査

宿泊施設利用者の実態を把握するため、区内の旅館・ホテルに宿泊者へのアンケート調査票の配布・回収にご協力をいただきました。あわせて、旅館・ホテルに対して宿泊者数等の調査を実施しました。

## 結果概要

### 1. 台東区の観光客数

平成 28 年の台東区の観光客数は、歩行者カウント調査や来訪目的などのパラメータ調査の結果、5,061 万人と推計されました。前回（平成 26 年）と比べ 557 万人の増加となっており、外国人観光客数は 830 万人で、前回と比べ 304 万人の増加となりました。これらの要因として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や LCC（格安航空会社）路線の増加などと相まって、外国人観光客が本区への来訪も増加傾向を示していることが考えられます。

表 1 台東区の観光客数の推計結果（平成 28 年 1 月～12 月）

	平成 28 年
年間観光客数	5,061 万人
年間外国人観光客数(内数)	830 万人

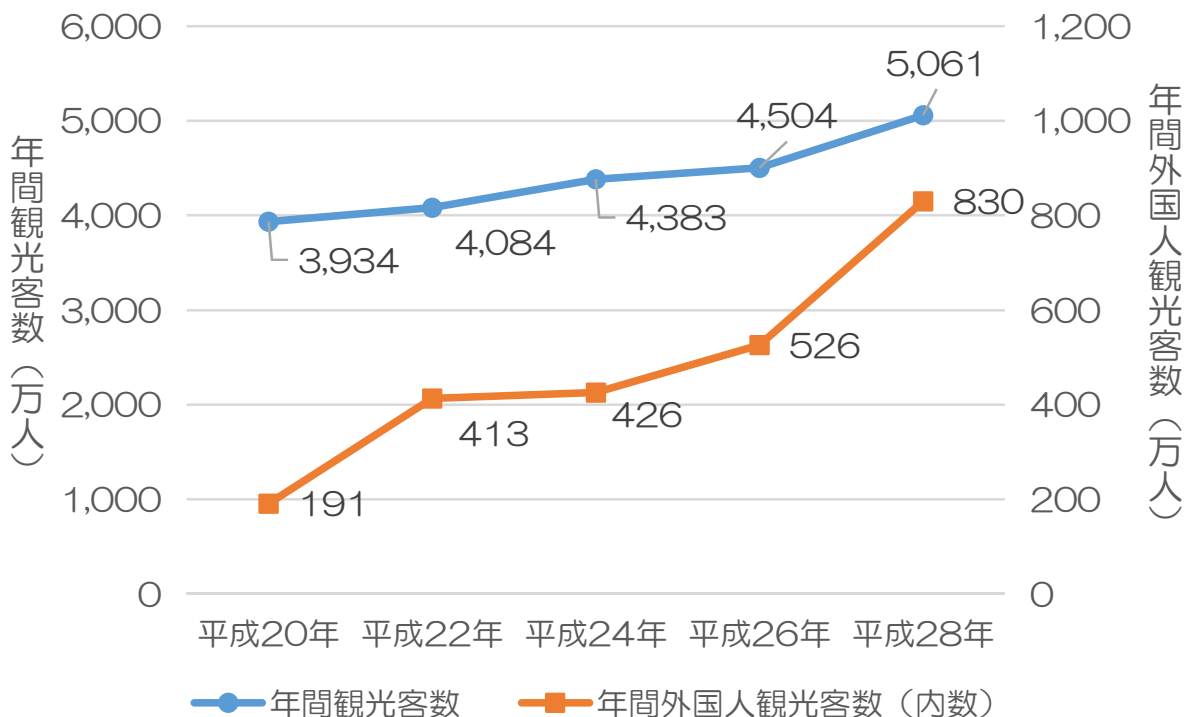


図 2 年間観光客数の推移

## 2. 各地区の観光客数

地区ごとの平常時の観光入込客数、イベント来訪者、宿泊観光客は表2のとおりでした。

各地区とも、平常時の観光入込客数やイベント来訪者、宿泊観光客は、概ね増加傾向にあります。特に宿泊観光客は大幅に増加しており、区内宿泊施設の新規開業等の影響が考えられます。浅草や上野では、区内をはじめ、都内や東京近郊の観光の拠点とする宿泊客が多いと考えられます。

表2 各地区の観光入込客数の推計結果

□上野地区

(単位:万人)

	観光客数(平成28年)		観光客数(平成26年)	
		地区の計		地区の計
平常時の観光入込客数	2,138	2,726	2,176	2,592
イベント来訪者	320		250	
宿泊観光客	268		166	

□浅草地区

平常時の観光入込客数	1,894	3,230	1,891	3,050
イベント来訪者	982		921	
宿泊観光客	354		238	

□谷中地区

平常時の観光入込客数	243	291	184	223
イベント来訪者	48		39	

□浅草橋地区

平常時の観光入込客数	119	154	116	150
イベント来訪者	35		34	

□その他

イベント来訪者	-	34	-	53
---------	---	----	---	----

※各地区の観光入込客数は、複数地区に回遊している人がいるため、合計は「台東区の観光客数」と一致しません。

### 3. 観光消費額

アンケートによる来訪者の区内消費額と各地区の観光入込客数を推計した結果、前回（平成 26 年）と比較して、年間観光消費額は 20 億円の増、1 人あたりの観光消費額は 609 円の減となりました。

プラスの要因としては、年間観光客数が約 557 万人増加していることが考えられます。

なお、観光庁では、平成 28 年の 1 人あたりの日本人国内旅行消費額について、前年同期比で約 2.6% の減（速報値の推計）になったと報じています。

消費項目別にみると、飲食やその他の消費が減少しましたが、買物、入場料等、宿泊の消費が増加しました。

表3 年間観光消費額の推計結果

	平成 28 年		平成 26 年
		前回との差	
飲食	850 億円	-141 億円	991 億円
買物	900 億円	+81 億円	819 億円
入場料等	308 億円	+14 億円	294 億円
その他	25 億円	-116 億円	141 億円
宿泊	589 億円	+182 億円	407 億円
観光消費額 台東区合計	2,672 億円	+20 億円	2,652 億円
台東区観光客数	5,061 万人	+557 万人	4,504 万人
1人あたりの消費額	5,279 円	-609 円	5,888 円

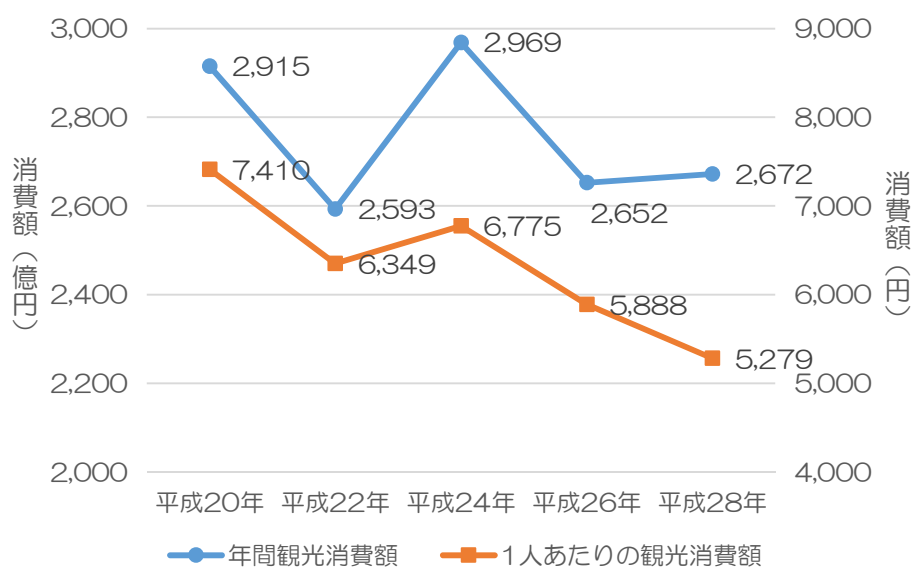


図3 観光消費額の推移

## 4. 滞在時間

アンケート調査による来訪者の平均滞在時間は区全体で3時間00分となり、前回（平成26年）の調査と同様の結果でした。また、来訪者の滞在時間3時間以上の割合は53.0%でした。

滞在時間については、散策を楽しむ人の割合や、文化・観光施設への来場者の割合、来訪者の回遊の状況などが影響していると考えられます。

### ■平均滞在時間

表4 平均滞在時間

	平成28年		平成26年
		前回との差	
上野地区	4時間00分	+30分	3時間30分
浅草地区	2時間10分	-50分	3時間00分
谷中地区	2時間00分	-30分	2時間30分
浅草橋地区	2時間00分	+38分	1時間22分

区全体	3時間00分	0分	3時間00分
-----	--------	----	--------

※平均滞在時間は中央値

中央値とは、全標本のうち、ちょうど真ん中の順位にある標本の数値を指します。標本数が偶数の場合は、真ん中に最も近い二つの標本の数値を足して、二で割った数値が中央値になります。

### ■滞在時間3時間以上の割合

表5 滞在時間3時間以上の割合

	平成28年		平成26年
		前回との差	
上野地区	71.2%	+4.3%	66.9%
浅草地区	42.2%	-7.9%	50.1%
上野地区+浅草地区	59.5%	+2.3%	57.2%
区全体	53.0%	+0.9%	52.1%

## 5. 来訪回数

来訪者へのアンケートで台東区への来訪回数を調査した結果は、表6のとおりです。

「初めて」と答えた人は、前回（平成26年）の調査と比べ2.1%を減りました。

2回以上のリピーターが占める割合（リピート率）は、前回より2.1%増えていますが、10回以上の多数来訪者が36.0%と前回調査と比べ8.3%減りました。

表6 台東区への来訪回数

	平成28年			平成26年	
			前回との差		
初めて	16.7%		-2.1%	18.8%	
2～4回	83.3% (+2.1%)	29.3%	+6.4%	81.2%	22.9%
5～9回		18.0%	+4.0%		14.0%
10回以上		36.0%	-8.3%		44.3%

## 6. 来訪者の台東区の印象

日本人・外国人とも、良かったこととして、「名所・旧跡、博物館・美術館」が最も多く、続いて「食事・買い物」が上位を占め、台東区の特徴ある観光資源の豊富さや利便性が支持されていると考えられます。一方、残念だったこととして、日本人・外国人とも、「人の多さ（混雑）」、日本人で「トイレ」、外国人で「Wi-Fi 環境」などが指摘されています。

### ■良かったこと（日本人・外国人） ※複数回答可

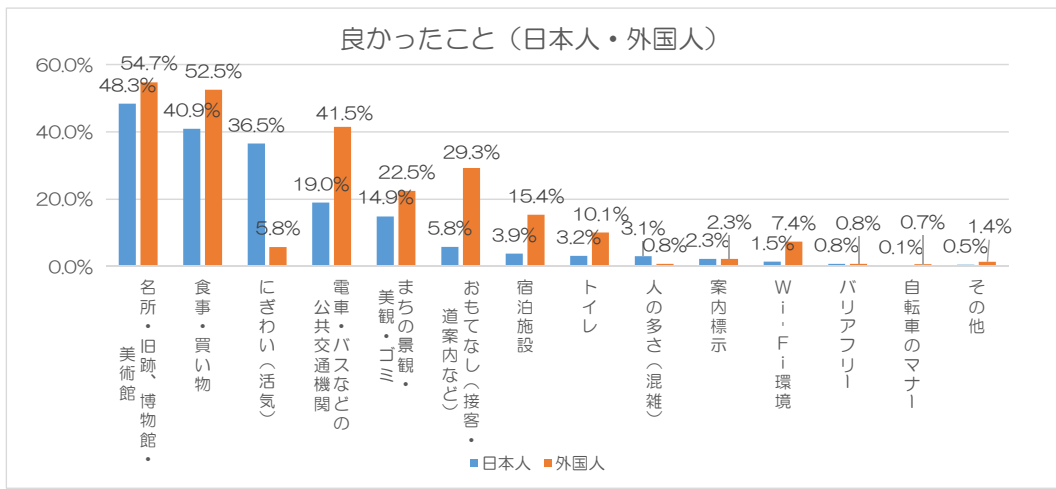


図4 良かったこと 回答数 日本人：753、外国人：902

### ■残念だったこと（日本人・外国人） ※複数回答可

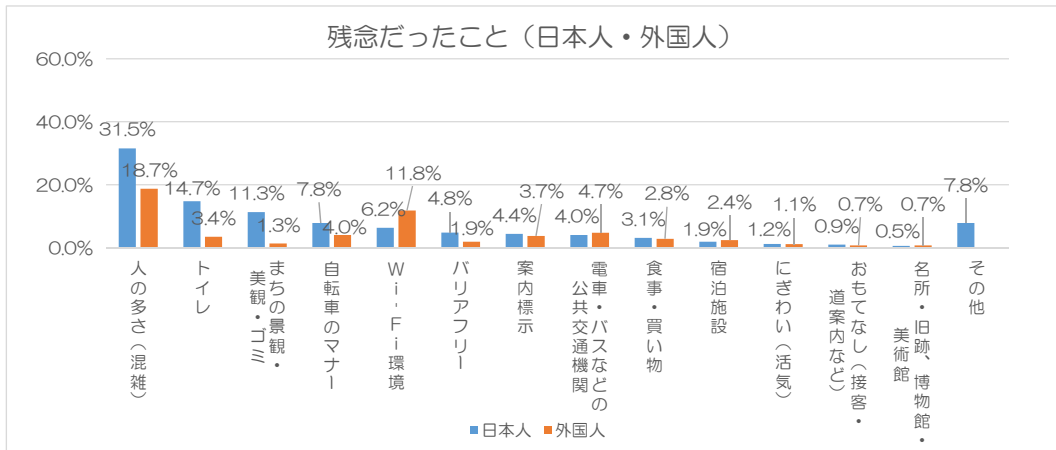


図5 残念だったこと 回答数 日本人：753、外国人：902

## 台東区観光統計・マーケティング調査 概要版

平成 29 年 3 月発行

編集・発行 台東区文化産業観光部観光課

〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号

TEL 03-5246-1111

平成 28 年度 登録 第 88 号

